

①取り組み

課題	テーマ	解決手法	実際の取り組み
	ごみ・流木の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟・水辺のごみ、流木対策検討に向けた調査を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(平成25年) 流木、人由来、生物影響ゴミの3種類を調査し、発生源を検討した。</li> <li>(平成26年) 西の浜と佐久島で他団体や山・川部会メンバーと連携してごみ・流木調査を実施し、漂着ごみの実態把握と問題意識の共有化を図ることができた。</li> <li>(平成27年) 山部会と協働して、東幡豆のトンボロ干潟周辺のごみの現状を確認した。</li> <li>(平成28年) 海ごみ・川ごみの問題について、全国的な活動を実施している一般社団法人JEANおよび全国川ごみネットワークから、ごみ問題に関する最新の知見について、情報共有を行った。</li> <li>(平成28年) 愛知県が取り組むごみ学習プログラムの内容について情報共有を行った。</li> <li>(平成29年) 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の「藤前干潟エクスカージョン」に参加し、藤前干潟の清掃活動やごみ焼却場を見学した。</li> </ul>
●海の生き物にとりまく課題	豊かな海の生物調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民、学識等の様々な調査より学習・分析する。</li> <li>三河湾のアサリの資源回復に関する現状について認識を共有し、解決に向けた取り組みを検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(平成25年) ハンドブック等を活用して、東幡豆天然干潟、西浦地区人工干潟の2地点において、生き物調査を実施した。</li> <li>(平成26年～平成29年) 三河湾の干潟・浅瀬造成に関する行政計画や事業内容、愛知県が実施した海底ごみ・生き物調査の結果を情報共有するとともに、鳥類調査を通じて干潟や背後の土地利用の問題を共有した。</li> <li>(平成27年～平成29年) 山部会と協働して、干潟の試験造成後の生物相の変化を把握した。</li> <li>(平成29年) 海の栄養塩の問題に関する最近の話題として、流入負荷削減と海の水産資源の関係性について学んだ。</li> <li>(平成29年) 八郎潟や油が淵での水質浄化に関する研究事例と水質浄化対策の技術的課題について情報共有した。</li> </ul>
	豊かな海の再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>三河湾のアサリの資源回復に関する現状の課題について認識を共有し、解決に向けた取り組みを検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(平成30年) アサリの減少原因を追究されている吉田漁業協同組合の石川組合長より、三河湾の現状について報告いただいた。</li> <li>(平成29年～平成30年) 合同部会では、三河湾の現状を山部会、川部会に対して情報共有を行った。</li> </ul>
	海と人の絆再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理的・物理的アクセス改善、学校等との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(平成24年) 水辺の魅力(利用状況)や生活拠点と水辺・干潟との関わり等、改善課題の発見を目的に海地域一帯を視察した。</li> <li>(平成26年) さまざまな場面でのアンケート調査等を通じて、子どもや保護者の海に対する意識やニーズを把握することができた。</li> <li>(平成27年) 山部会との合同会議では、漁業者との懇談を行い、水質や砂の問題や新たな担い手の問題を検討・共有した。</li> <li>(平成28年～平成30年) 流域のイベントへの参加によって、三河湾(海)の生き物が身近なものとなった。</li> </ul>
●海と人の課題	干潟・ヨシ原再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>川と海の連携による干潟再生を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(平成23年) 一色干潟、人工干潟、矢作川干潟再生箇所、矢作川浄化センターを視察した。</li> <li>(平成25年) 矢作川河口干潟の生き物調査及び矢作ダム砂の実態調査を実施した。</li> <li>(平成26～平成27年) 矢作ダム砂を活用した干潟造成の試験施工について、関係機関の協力を得て実現した(H27.3.10矢作ダム砂の投入)。</li> <li>(平成27年～平成29年) 干潟の試験造成後の生物相の変化を簡単な調査を行いながら意見交換を行った。</li> </ul>

②成果（第10回海部会まとめの会 意見交換集約）

課題	テーマ	できたこと	もう少しでできたこと	できなかったこと
海の生き物をとりまく課題	ごみ・流木の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>他部会を巻き込んだごみの現状把握と問題提起</li> <li>田原海岸でのごみ拾いの実践</li> <li>ごみ問題を通じた流域圏のつながりの構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工ごみと栄養塩に変わるごみの区別</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他部会との認識共有</li> <li>問題の構造の共有からの解決策への発展</li> </ul>
	豊かな海の生物調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査手法の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他部会を巻き込んだ調査</li> </ul>	
	豊かな海の再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>合同部会でのアサリの不良に関する情報共有と原因に関する議論</li> <li>合同部会等で三河湾の問題の他部会への情報発信</li> <li>アサリの問題の把握で山・川・海のつながりを実感</li> <li>矢作ダムの上砂投入実験の実施・事後評価（貝類・鳥類の把握）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダムの上砂有効利用についての他部会との協議</li> <li>栄養塩類 N-P の問題理解による管理放流の開始</li> <li>海のあるべき姿に関するさらに深い協議</li> <li>栄養塩管理に関する他部会との論議（解決手法）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山・川・海を通じた海の問題の解決に向けた他部会との意見交換</li> <li>「透き通った海≠豊かな海」という情報の周知</li> </ul>
海と人の課題	海と人の絆再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>奥矢作森林フェスティバル、矢作川感謝祭への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陳情できるような組織づくり</li> <li>国・県等への働きかけ</li> </ul>	
	干潟・ヨシ原再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>小規模な人工的な干潟での生物相の回復とその後の低下についての情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダムの上砂投入実験の範囲拡大</li> </ul>	

行政・市民・研究者間での議論を通じた海の問題の共有

海部会が主導となる活動